

(平成27年 8月分)

種類	市況の概況
(水産物部の動向) 水産物全般	8月の総入荷量は、前年に比べると鮮魚、冷凍魚は順調に入荷したもの、加工水産が総じて値上がりしたことにより入荷減少したため、全体として3%下回った。輸入物が世界的な需要の高まりや為替の影響で値上りしたもの、入荷量が減ったため、水産物全般の取扱金額は前年並みとなった。
(区分別の動向) 鮮魚	8月の鮮魚の総入荷量は、天候に恵まれ、順調に入荷したことから、前年同月並みとなり、平均単価も前年並みとなった。 品目別には、ぶりは単価の安い天然物の入荷が増えたことから、価格は28%下回った。また、はも(近)は先月の台風等の悪天の影響による値上がりから転じて、今月は入荷量が増え、後半には需要のピークも過ぎたことから、価格は24%下回った。 9月1日からは日本海の底曳き網漁が解禁となり、かれい類を中心に、にぎす、たら、あんこう等の入荷増加が期待される。これから、さんま、さばのように脂が乗ってくる魚が増え、また秋さけ漁も始まり、味覚の秋が到来する。
冷凍魚	8月の冷凍魚の総入荷量は、前年同月並みとなつたが、輸入物を中心に国際価格の値上がりや為替の影響などから、平均単価は3%上回った。 品目別には、冷さばは国内物の入荷が減り、値下がりしたノルウェー産の入荷が増えたことから、価格は10%下回った。また、冷えびは主要産地のインド産の入荷量が増え値下がりしたため、価格は13%下回った。 今後については、チリ産銀さけ、ノルウェー産さばが既に値下がりをして、過剰な在庫も調整されたため、為替の大きな変動がなければ、現在の価格が続くと思われる。

加工水産物	<p>8月の加工水産物の総入荷量は、塩さば、開干あじなどが入荷減少するなど前年同月と比べ7%下回ったため、平均単価は11%上回った。</p> <p>品目別には、ちりめんは水揚げが好調だったことから入荷量が19%上回ったものの、荷動きが良く、価格は15%上回った。また、塩ますは国内物が不漁で値上がりしたため、価格は10%上回った。</p> <p>塩さんまについては、さんま漁が8月20日から全船解禁となり、本格的な入荷が始まった。水揚げは小型物が中心であるが、脂乗りは良く、買い求めやすい価格となっている。また、9月1日から紅ずわいがにのかご漁が始まり、水揚げは順調ではあるものの、漁が始まったばかりなので、かに身の価格は高値となっている。</p> <p>京都で親しまれているささかれい、かますの一夜干しの新物も入り、毎日のおかずには、旬の魚を楽しむことができる。</p>
-------	--

※生鮮魚：鮮魚、貝類、淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品目	市況の概要
(鮮魚主要品目の動向)	
ま　　あ　　じ	静岡、宮城で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ33%下回ったため、価格は25%上回った。
ま　　い　　わ　　し	愛知、大阪で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ3%下回ったため、価格は4%上回った。
さ　　ば	三重、長崎で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ8%下回ったため、価格は9%上回った。
す　　る　　め　　い　　か	青森、石川で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ54%下回ったため、価格は14%上回った。
太　　物	総入荷量は前年同月と比べ5%上回ったため、価格は3%下回った。
は　　も　　(近)	徳島、山口で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ15%上回ったため、価格は24%下回った。
か　　ま　　す	長崎、鹿児島で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ7%下回ったが、主産地の長崎産の減少と小型サイズが増加した影響により、価格は4%下回った。

品目	市況の概要
(冷凍魚主要品目の動向)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月並みだったが、ノルウェー産の値下がりによる影響を受け、価格は10%下回った。
冷 す る め い か	入荷量は、前年同月と比べ28%下回ったため、価格は4%上回った。
(加工水産物主要品目の動向)	
塩 さ け	入荷量は前年同月並みとなり、価格も前年同月並みとなった。
	魚種別では、塩銀さけは入荷量が8%上回り、価格は12%下回った。
	塩紅さけは入荷量が8%下回り、価格は14%上回った。本チャンの塩紅
	さけは高値が続くと思われるが、アラスカ、ブリストル湾の紅さけ漁が豊
	漁で終わったことから、主流の定塩フィーレ等の製品は、高値圏ではない
	価格帯で落ち着くものと予想される。
塩 ま す	入荷量は前年同月と比べ7%下回り、価格は10%上回った。